【一】　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

小学六年生の一将は、弟の将人が大縄跳び大会の朝練に出なかったため、荻野先生からひどく怒られていたことを、友人の咲良から聞いた。

大縄跳び大会は、地域の小学校が集まって行う大会だ。学年別で二十人以上のチームを作り、五分間に連続で何回跳べるか競い合う。一人でもつっかかればダメージが大きいから、そういうのに出るやつは、ある程度、運動が得意で、しかも本番に強いやつだと思う。

宮館小学校は、地域の中でも強いほうで、毎年どこかの学年が優勝している。失敗したときのみんなの視線を想像するだけで、一将は尻込みした。

だから、将人が大縄跳び大会に出ると聞いたときは驚いた。にこにこして、「ぼく、縄跳び得意だから」なんて言う。

まだ二年生だから、失敗したときのことなんて想像しないんだろう。それに、A引っこみ思案で自分に自信がない将人が、何かにチャレンジするのはいいことだって母さんもうれしそうだったから、まぁいいか、なんて思ってたんだけど……。

でも、「見ててかわいそう」なほど怒られたのは気になる。あいつ、いじけやすいし、また自信を失ってしまったんじゃないだろうか。

うちは三人兄弟で、上から秀一、一将、将人って順番だ。まるでしりとりのようだけど、母さんは「女の子が生まれてたら違ったんだけど」なんて言う。まぁ、兄弟ってわかりやすいからいいか、と一将も思っていた。

ただし、中学二年生の秀一は、一将たちとは別格だ。中学受験して中高一貫校に通っているし、サッカー部で運動も得意だし、ルックスもまあまあときている。以前は三人で遊ぶこともあったのに、部活と勉強で忙しい秀一とは、会話を交わすこともあまりなくなった。

そんな秀一に、いいところを全部持っていかれたおかげで、一将と将人は日々苦労している。

一将は勉強が苦手だし、将人は運動が苦手だ。

一将も苦労しているから、将人のことは放っておけないような気がする。①将人が怒られたと聞くと、一将まで怒られたみたいにゆううつな気持ちになった。

一将は、中休みに、こっそりと二年生の教室をのぞいた。

男子はほとんど校庭や廊下で遊んでいるのに、将人は机で何かを描いていた。

さすがに、違う学年の教室に入るのはB気が引ける。イスも机もやけに小さくて、かき分けるように近づいた。

すると、将人のそばに男子が三人やってきて、ゲラゲラと笑いはじめた。

「なんだ、この絵？」

「もしかして、ミラクルドラゴン？」

「うそだろ～！　へったくそ！」

将人が顔を上げて、両手でノートをおおった。

ミラクルドラゴンは、将人がいちばん好きなアニメのお気に入りのキャラクターだ。

「そんなの描いてないで、おまえ、大縄跳びの練習しろよ」

「そうだよ。荻野先生も言ってただろっ。将人のせいで勝てなかったらどうすんだよ」

将人の動きが止まり、一将の胸もズキッと痛んだ。

くそ……。

②一将はわざと目立つように、ズカズカと教室に入っていった。

「おい、将人」

「あ、兄ちゃん」

将人が振り向くと、男子三人が目を丸くした。ぎろっとにらみつけたとたんにおどおどして、ぱーっと散っていく。

なんだよ、あいつら！　とイライラして、一将はちらっとノートを見た。

ミラクルドラゴン……確かにうまくはないけれど、と思いながら、将人の机に手をついて、目立たないようにしゃがみこんだ。

「今朝、怒られたんだって？」

「え！」

その目は、どうして知っているのかと驚いていた。そして、うつむく。

「なんで朝練に行かなかったんだよ」

「だって……ぼく……よくわからなかったし」

「わからなかったって、どういうことだよっ」

心配で様子を見に来たはずなのに、そのあいまいな態度にイラッとして、つい強い口調になった。

「だってさ、荻野先生、『できない子は早く来て』って言ったんだよ」

「だったら……」

「ぼく、できるもんっ」

一将は言葉をのみこんだ。

できる……そうだった。将人にとって、大縄跳びは「できる」に入る。ただし、跳び箱や

鉄棒やかけっこに比べたら、ということだ。

一将は、ゆっくりと息を吐き出した。

③荻野先生にとっては「できない」でも、将人にとっては「できる」。

怒るくらいなら、はっきりと将人に来るよう言えばよかったんじゃないかと、荻野先生にも腹が立った。

そのとき予鈴が鳴って、一将は立ち上がった。足がしびれかけている。小さいのが次々と入ってきて、「こいつだれだ？」という目で、一将をじろじろと見ていた。

「じゃあな」

一将は、さっと教室を出ていった。後ろでだれかが笑っている気がする。

ちえっ……。

咲良がよけいなことを言うから……なんて、八つ当たりじみた思いまでわいてきた。

六年生の教室に戻ろうとしたとき、前から荻野先生がやってきた。

うわっと、思わずうつむく。

悪いことをしたわけでもないのにと思いながら、④一将は上目遣いに顔を上げた。

荻野先生は、母さんと同い年くらいの女の先生だ。いつも眉間にしわを寄せているし、口元はムスッとしている。怒っているような顔が、近寄りがたくて正直苦手だ。

どきどきしていると、その距離が縮まってきた。

そうだ、と一将の中に強い思いが芽生える。将人のために、ひと言言ってやろう。

——そんなに怒ることないじゃないですか。

——あいつだって、一生懸命やってるし。

——みんなの前で怒るなんて……。

言いたいことが、次々と浮かぶ。

周りの声も姿も消えて、荻野先生だけしか見えない。

来たっ！

緊張して、胸がぎゅうっと苦しくなった。

鼓動がどんどん速くなる。

息を吸ったまま、吐き出すことができなかった。

声を出せずに、すれ違う。

背中に気配を感じながら、ふうっと息をついた。

将人のいじけた顔がチラついたけれど無理だ。

焦りと、*落胆と、*安堵が一気に押し寄せる。

くそっ！　オレは何もできないのか……と、気がゆるんだとき、

「ねえ、滝川くんって……」

荻野先生に名前を呼ばれて、条件反射のように体が固まった。

「将人くんのお兄ちゃん？」

「へっ!?」

突然で心の準備もなかったせいか、一将の声が裏返った。乾いたのどに、無理やりつばを流しこんで、やっと声が出る。

「そう、ですけど……」

「じゃあ、あなたからも言っておいてよ。将人くんに、朝練出るように」

先生は、にこりともしないで眉間のしわをいっそう深くした。

「今のままじゃ、勝てないから」

勝てない……。将人がいると、勝てないって言われたようだった。

もう少し勇気があったら、「勝つことが、そんなに大事っすか？」って、言ったと思う。

でも、荻野先生の目力に押されて、一将はただうなずくだけだった。

「はい……」

歩きだそうとした荻野先生が、また何かを思い出したように振り向いて、ぎくりとする。

「あれ？　もしかして、滝川くんたちのお兄さんって、秀一くん？」

Cけげんな顔で聞かれて、嫌な予感がした。

すると、まだ答えてもいないのに、荻野先生は大げさに驚いた。

「うそ、そうなの!?」

⑤じろじろと見る目に、心がざらついた。

こういう反応は、はじめてじゃない。秀一は、運動会ではいつもリレーの選手だったし、行事のたびに委員長や代表をしていた。絵画コンクールで優秀賞を取ったり、作文で表彰されたり……。

荻野先生は、秀一の六年生のときの担任だった。受験して有名中学にも受かったから、卒業して二年近く経つのに、まだ印象に残っているのだろう。

そのせいで、一将と将人が兄弟だと言うと驚く先生はけっこういる。何が言いたいのか、だいたい察しはついた。それは、見えないナイフで胸をざくっと傷つけるくらいの威力を持っている。

荻野先生は何も言わずにため息をつくと、「じゃあ、お願いね」と言って、くるりと背中を向けた。

そこから逃げるようにして、一将は小走りに階段を駆け上がった。知らないうちに、背中にびっしょりと汗をかいている。⑥全身がけだるくなるほど、嫌な気分になっていた。

（工藤純子『あした、また学校で』）

＊落胆……がっかりすること。
＊安堵……安心すること。

問一 ＝＝A「引っ込み思案」B「気が引ける」C「けげんな」の意味として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A「引っ込み思案」
ア 何でも人にゆずってしまう性格。
イ 自分から行動を起こせない性格。
ウ どんな時も他人をたよる性格。
エ いつも人の言いなりになる性格。
オ 友だちに心を開かない性格。

B「気が引ける」
ア 気持ちがおじけづく。
イ 気持ちが弱くなる。
ウ 気持ちが引きしまる。
エ 気持ちがみだれる。
オ 気持ちが向かない。

C「けげんな」
ア ゆずらないさま。
イ きらってさけるさま。
ウ おもしろがるさま。
エ 明るく問いかけるさま。
オ 納得がいかないさま。

問二 ――①「将人が怒られたと聞くと、一将まで怒られたみたいにゆううつな気持ちになった」とありますが、将人が怒られると一将がゆううつになるのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の気持ちをうまく表現できない弟のことを、いつも心配しているから。
イ 一将と将人は、どんな時もすぐれた兄と比べられて苦労しているから。
ウ 気の弱い将人が、がんばってチャレンジすることはめずらしいことだから。
エ 一将も不得意なことがあり、将人のことを他人事として考えられないから。
オ 二年生の将人には、自分の失敗が予想できていないとわかっているから。

問三 ――②「一将はわざと目立つように、ズカズカと教室に入っていった」とありますが、こっそりと教室をのぞいていた一将が、このようにしたのはなぜですか。その理由を十五～二十字で答えなさい。

問四 ――③「荻野先生にとっては『できない』でも、将人にとっては『できる』」とありますが、荻野先生と将人にとっての「できる」はどのようにちがいますか。そのちがいを説明した次の文の［X］と［Y］にあてはまる言葉を（　）に指定された字数で答えなさい。

荻野先生にとって「できる」とは［X（五～十字）］ことを指し、将人にとって「できる」とは［Y（十五～二十字）］ということを指している。

問五 ――④「一将は上目遣いに顔を上げた」とありますが、この時の一将の気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 弟を心配している気持ちを、先生にだけは伝えたいと思っている。
イ しかられていないけれど、とりあえずあやまっておきたいと思っている。
ウ こわいけれど、たよりがいのある先生に相談に乗ってほしいと思っている。
エ できれば顔を合わせたくないけれど、先生の様子が気になっている。
オ こわい先生だという評判を聞き、すきを作らないよう用心している。

問六 ――⑤「じろじろと見る目に、心がざらついた」とありますが、この時の一将の気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 優秀な兄と比べて、自分がおとると思われているのがわかり、心をいためている。
イ 秀一の弟ならば秀一と同様に何でもできるはずだと思われて、ひどくあせっている。
ウ 自分が秀一の弟であることを疑われていると知り、いつものことだとあきらめている。
エ 将人と自分の行動が秀一の評判を落としていると言われた気がして、腹を立てている。
オ 秀一の弟と知ってやさしい言葉をかけようとしているのを知り、先生を見下している。

問七　――⑥「全身がけだるくなるほど、嫌な気分になっていた」とありますが、この時の一将の様子として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　朝練に出ることをいやがっている将人に、練習に出ることをすすめるよう先生にたのまれて、将人にどう言えば良いかわからないでいる。

イ　先生たちは大会に勝つことや有名中学に合格することでしか、生徒を認めないことを知り、学校からにげることができず、絶望している。

ウ　先生が将人や自分のことを一人の生徒として見ているのではなく、何でもできた秀一の弟としか見ていないことがわかり、つらく思っている。

エ　将人や自分の可能性を信じようとせず、秀一の弟という情報だけで、すべてを決めつけている大人を、なんとかして見返したいと思っている。

オ　他の先生は、生徒一人ひとりを大切にしてくれているのに、そのことを荻野先生に伝えることができなくて、自分の弱さに腹を立てている。

【二】　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

世の中には「時代の空気」というものがあります。

たとえば、高度経済成長時代といわれたころの昭和の時代というのは、活気ある時代だったけれども、いまみたいな繊細さはなかったんですね。経済発展が第一で、公害による環境汚染という意識は今より低かった。

そういう時代は、人々もいまより＊粗野だった。荒っぽかったんです。いまなら、「＊パワハラでアウト！」と言われるようなことが、普通に行われていました。

①これからきみたちが生きていく時代というのは、そうではありません。

高度に成熟した社会になって、環境への配慮、他者への配慮というものが求められる時代になっています。

感じがよくないとやっていけないという「高度社会成熟時代」「感じのよさ重視社会」になってきているわけです。

お店にすごく感じの悪い店員さんがいて、お客さんがイヤな思いをすると、それがネットで拡散されて、お店の評判が落ちる。こういったことがよくあります。

だから、②お店で雇う人も「感じのいい対応ができる人か」が大事になります。

宅配便のドライバーの人たちも、運転ができて荷物が届けられればいいわけではなく、感じよく話をすることもできないといけません。どんなに運転がうまく、仕事が早くて優秀でも、届けてくれたときの態度が不愛想で感じがよくないと思われると、マイナス評価をつけられてしまいます。

何かをコツコツ研究するような仕事は、そんなの関係ないだろうと思うかもしれませんが、やっぱり感じのいいコミュニケーション力がないといけない。

チームで研究するわけですから、協調性が大切になります。

研究をしつづけるためには、お金がかかります。その研究が成功したら役立つ企業などが応援してくれることで、研究が続けられる。支援してもらうには、自分たちがやっている研究に関心をもってもらえるようにしなければならないわけです。

いまの時代、別に人とうまくつきあえなくても、インターネットさえあればひとりで生きていけるような雰囲気が、社会にただよっています。

学校に行かなくても勉強する方法はいろいろあります。

家にいながらにして、買い物だってできます。

職業にしても、会社に所属しなくても仕事する方法、お金をかせぐ手段があるかのように

思えます。しかし、③実際にはそうはなっていないんです。

やっぱりコミュニケーション力が必要。いえ、いままで以上に、感じよく人とかかわれることが、求められるようになっているのです。

「会社員になんかならない、④フリーターで生きていくからいい」と言う人がいます。

フリーターというのは、職場をいろいろ替えていくということです。だから、社員としてひとつの会社にいつづけるよりも、いろいろな人とコミュニケーションする能力が求められます。新しい職場に行くたびに、そこでいろいろな人と新たに人間関係を作らなければいけないのです。

でも、そういうことはあまり言われないでしょ。いかにもフリーターは自由で、気楽みたいなことが言われる。本当はそうじゃないんです。

フリーターで仕事するというのは、いろいろなところでいろいろな人とうまくやっていく人間関係力がないと、なかなかむずかしい。

これからの時代も、どこに行って何をするにも、やっぱりコミュニケーション力が必要になってくるんです。

「コミュニケーションは苦手」「人とかかわらなくていいことだけしていたい」と思ってしまうと、生きづらくなります。

学生時代にこういうことを教えてくれる人がいたら、ぼくはもっと早くにコミュニケーションの大切さ、感じのよさの大切さに気づけていただろうと思います。

ぼくは大学院時代、⑤不機嫌沼にどっぷりと浸かっていました。

普通に会話をしているときも、相手の間違いをズバズバ指摘し、強く否定してしまうようなことをしていました。それが正直な生き方だと思いこんでいました。

人から好かれるようなことをしなくても、正しいことが通る、能力が高ければ認められる、と思っていました。

そうやって「わが道を行く」ということを貫いた結果、２０代後半になっても無職、仕事がありませんでした。いっしょに働こうと思ってくれる人がいなかったのです。

やたらと人に攻撃を仕かける人は、かわいげがないんです。まわりを不愉快にする。そういう人間に仕事をまわしてやろうという人はいませんでした。

これは才能とか仕事の能力といったこと以前に、人とのかかわり方で判断されることなんです。

感じよく対応できることがまずあって、それから能力が評価されるんです。

人は、気をつかえるから社会でちゃんとやっていけるのです。

縁あって大学講師の職につくことができたとき、ぼくは⑥自分の間違いを痛烈に反省しました。

そして自分自身の苦い経験をもとに、コミュニケーションの大切さ、人間関係の築き方がどんなに大切かということを伝えるようになったのです。

コミュニケーション力なんてなくてもいい、と思ってはダメですよ。

不機嫌でいてもゆるされる、自分には高い能力があるんだから、なんて思っていてはいけません。

むやみに人を敵にまわさないこと。

やたらと人を傷つけないこと。

そういうことをしていると、⑦人間関係がどんどん悪化して、いろいろなことがうまくいかなくなります。自分がどんどん狭められていく感じがあります。それは息苦しいものです。

いま考えると、ぼくは不機嫌をまき散らして環境破壊をしていたんです。

大人になってから「しまった！」と思わないように、きみたちはいまから心がけておきましょう。

（齋藤孝『本当の「頭のよさ」ってなんだろう』）

＊粗野……荒々しくて、品のない様子。

＊パワハラ……上の立場の人が下の立場の人にいやがらせをすること。

問一　――①「これからきみたちが生きていく時代」とありますが、それはどういう時代ですか。本文中から四十字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

問二　――②「お店で雇う人も『感じのいい対応ができる人か』が大事になります」とありますが、「感じのいい対応」の具体例として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　配達時間におくれても、悪びれるようすも見せない宅配便のドライバー。

イ　すばやく会計を終わらせるが、おつりを投げて返すコンビニの店員。

ウ　知識はあるが、コミュニケーションを取ろうとしない家庭教師。

エ　客の注文を聞かず、自分が作りたい料理を出すレストランのシェフ。

オ　何度同じ道をたずねられても、そのたびにていねいに案内をする駅員。

問三　――③「実際にはそうはなっていないんです」とありますが、それはどういうことですか。三十～四十字で答えなさい。

問四　――④「フリーター」とありますが、フリーターに必要な力とはどのような力ですか。本文中から二十九字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

問五　――⑤「不機嫌沼にどっぷりと浸かっていました」について次の問題に答えなさい。

1　「不機嫌沼にどっぷりと浸か」るとはどういうことですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　人から好かれるような行動をすること。
イ　人とのかかわりをさけること。
ウ　いろいろな人とうまくやっていくこと。
エ　やたらと人に攻撃を仕かけること。
オ　周りの人をむやみに見下すこと。

2　「不機嫌沼にどっぷりと浸かって」しまった結果、筆者はどのようになってしまいましたか。四十～五十字で答えなさい。

問六　――⑥「自分の間違い」とありますが、どういうことが間違っていたのですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　能力より、人とのかかわり方の方が重要だと思っていたこと。
イ　フリーターのような生き方はすべきではないと思っていたこと。
ウ　正直な生き方をすることがコミュニケーションだと思っていたこと。
エ　気をつかえるから、社会でちゃんとやっていけると思っていたこと。
オ　能力が高ければ、人から好かれる必要はないと思っていたこと。

問七　――⑦「人間関係がどんどん悪化して、いろいろなことがうまくいかなくなります」とありますが、人間関係を悪化させず、いろいろなことがうまくいくようにするにはどうすれば良いですか。適当なものを次から**二つ**選び、記号で答えなさい。

ア　人間関係の大切さに気づき、コミュニケーションを取る。
イ　粗野で荒っぽいが、昭和の時代のように活気を出すようにする。
ウ　自分の能力を高めることに集中し、周りの人に認めさせる。
エ　何かを研究するような、人間関係と関係ない仕事をする。
オ　むやみに人を敵にまわしたり、傷つけたりしないようにする。

【三】　次の①～⑩の――の漢字はひらがなに、カタカナは漢字になおしなさい。

①　説明を補う。
②　部下を従える。
③　進物を用意する。
④　この寒さには閉口する。
⑤　車窓ごしの風景。
⑥　毛糸をアむ。
⑦　紙をタバねる。
⑧　ホウフな知識。
⑨　国のソンボウをかける。
⑩　才能とソシツに恵まれる。

— 国 語 — 第1回 午前 〈解答用紙〉

【一】

問一 A B C

問二

問三

問四 X Y

問五

問六

問七

【二】

問一 初め 終わり

問二

問三

問四 初め 終わり

問五 1 2

問六

問七

【三】

① う

② える

③

④ する

⑤

⑥ む

⑦ ねる

⑧

⑨

⑩

受験番号		氏名		得点	